精神神経学雑誌　第110巻第12号（2008）　1145-1147頁

世界精神医学会メルボルン大会に参加して

青木　信生[1,2]，松本　良平[1,3]，長峯　正典[1,4]，
鈴木　友理子[1,5]，和気　洋介[1,6]，橋本　直樹[1,7]

はじめに

2007年11月28日から12月2日までオーストラリアのメルボルンで，世界精神医学会（World Psychiatry Association：WPA）の総会が開催された．WPA総会には若手精神科医向けのfellowship　programがあり，日本精神神経学会（The Japanese Society of Psychiatry and Neurology：JSPN）から，推薦者が送られた．

日本若手精神科医の会（Japan Young Psychiatrists Organization：JYPO）は，国際的に通用する精神科医の育成と，国内外の精神科医との交流を目的とし，2002年に横浜で開催されたWPA世界大会にあわせて設立された．メルボルン大会でもfellowship　programを含め多くのJYPOメンバーの参加がなされた．本稿では，WPAメルボルン大会に参加したJYPOメンバーによる報告を行う．本報告が，今後JSPNメンバーやJYPOメンバーがWPAに参加するに当たっての一助となることを期待する．（2001年卒　松本良平）

1.　WPA Young Psychiatrists' Fellowship Program

今回，幸いなことに日本精神神経学会から推薦をいただき，Young　Psychiatrists' Fellowship Programに参加させていただきました．このような貴重な機会を与えてくださったことに対し，精神神経学会及び推薦していただきました諸先生方に改めて御礼申し上げます．

このYoung　Psychiatrists' Fellowship Programは，毎年行われる国際大会においてWPAが若手育成の一環として企画しており，フェローは学会参加費・宿泊費・渡航費用の一部を援助される大変ありがたい制度である．アジア諸国から計20名の若手精神科医が一堂に会し，各国の精神科医療の現状・問題点・教育システムなどについて情報交換を行った．学会初日にはホスト国であるオーストラリアの精神科医が我々を引率してメルボルン市内を案内し，3日目の夜には洒落たイタリアンレストランでおいしいオーストラリアワインを飲みながらの夕食会が行われた．お酒の効果もあってか，文化背景の異なる精神科医同士で楽しい時間を過ごすことができ，非常に貴重な体験ができた．また，WPA　presidentであるMezzich教授がわざわざFellowship Meetingに来て下さり，アジア諸国のみならず世界各国の間で精神科医が連携し，協力していくことの必要性を話しておられたのが印象的だった．

本学会を通じて多くのアジアの精神科医と新たな交流を持ち，アジア精神医学の状況を知ること

著者所属：1）日本若手精神科医の会（Japan Young Psychiatrists Organization：JYPO），2）神戸大学医学部附属病院精神科，3）海辺の杜ホスピタル，4）防衛医科大学校精神科学教室，5）国立精神・神経センター精神保健研究所，6）岡山大学大学院医歯薬学総合研究科精神神経病態学，7）北海道大学大学院医学研究科神経病態学講座精神医学分野

受理日：2008年11月1日

ができた．興味のある方は是非 Fellowship Program に応募されることをお勧めする．この貴重な体験を活かし，今後も国際的な交流の場で日本の若手精神科医として積極的に発信，また国内においても国際的な視点を持ちながら精神科医療に励んでいきたいと思う．（1998 年卒　長峯正典）

2．シンポジウム「アジア太平洋地域におけるメンタルヘルス・ファーストエイドプログラム」

本シンポジウムは，Mental Health First Aid（以下 MHFA と略す）プログラムの開発者である，Kitchener と Jorm（メルボルン大学オリジン研究センター）が企画し，オーストラリア内外の本プログラムの展開に関する演題で構成された．MHFA プログラムとは，精神健康問題をもつ人を専門家につなげるまでに必要な基本的態度と技術を市民に伝え，市民の精神健康問題に関する正しい知識の普及と対処技能の向上を目指す予防的プログラムである．MHFA では，対応の原則を 1）自傷・他害の評価，2）判断や批判を加えずに傾聴，3）安心を与え，情報を提供，4）適切な専門家支援を得るよう勧め，5）自分でできる対応法を勧める，これらの頭文字を ALGEE（A：Assess risk of suicide or harm，L：Listen non-judgmentally，G：Give reassurance and information，E：Encourage person to get appropriate professional help，E：Encourage self-help strategies）にまとめている．プログラムでは，自殺関連行動，うつ，不安障害，精神病状態，物質乱用について，疾患の科学的事実と一般的な経過，治療の選択肢について説明する．そして前述の ALGEE の原則に沿った具体的な対応法を参加型の演習を用いて獲得することを促す．本プログラムはこれまでに量的，質的研究の両面で効果が実証されてきており，香港，シンガポールなどのアジア諸国をはじめ，スコットランド，カナダといった欧米諸国へ広がっている．日本への導入は，「こころの応急処置マニュアル」として，まず研修医を対象として自殺関連行動に焦点をあてた短時間型にプログラムを修正施行し，その後医療の非専門家や一般市民へ広げていく研究計画を筆者が発表した．なお本学会に先立ち，若手の精神科医らがオリジン研究センターにおいて MHFA 研修を受けて本プログラムのエッセンスやスピリットを学ぶことができたことも大きな収穫であった．（1996 年卒　鈴木友理子）

3．ポスターセッション

本学会のメイン会場であった Melbourne Congress Centre にて，各製薬会社のブースと共有スペースでのポスター展示が行われた．我々 JYPO のメンバーからは上原久美（横浜市立大学），佐藤玲子（横浜市立大学），長峯正典（防衛医科大学），橋本直樹（北海道大学），佐藤創一郎（慈圭病院）と和気洋介（岡山大学）の 6 名がポスター発表した．今回の学会では約 250 演題と数多く，大きな国際学会ということもあり研究テーマは多岐にわたっており，発表者と意見交換をしやすいといったポスター発表の特徴から，お互いに積極的な交流を楽しむことができた．各国の地域精神医療の取り組み，多文化間精神医学，教育現場でのうつ病の現状，災害後のメンタルヘルスの取り組みの報告など，それぞれの国の現状を垣間みることができ，非常に有意義であった．また脳画像研究や基礎研究の発表もあり，個人の興味の範囲にとどまることなく，幅広く知識を深めることができた．（1994 年卒　和気洋介）

4．口頭発表　“Gender Differences of the Psychiatrists”

日本の女性精神科医は全体の 18％を超え，欧米諸国と比較すると未だその数値は低いものの，今後もその割合は増加していくことが予想されている．欧米では女性精神科医の比率が増加していた 1990 年代前半に精神科医の性差に関する調査が相次いで行われ，臨床の専門性の違い，勤務時間や職場での処遇などの性差が明らかにされ，精神科医の性差に基づいたよりよい職場環境の形成に役立てられてきた．我々日本若手精神科医の会は，2006 年から 2007 年にかけて北海道と神奈川

県で精神科医の意識調査を行い，男女差に着目して結果を解析し，報告してきた．2007年4月にソウルで開かれたWPAのアジア学会では，JYPOが使用したものと同様のフォームを使用して台湾と韓国でなされた同様の調査の結果が報告された．今回はその流れを受けて，gender研究に関する総論的な報告を横浜市大の上原久美先生が，国内の結果についての報告を筆者橋本が行い，さらに台湾からの2名の演者が台湾での調査の最終結果を報告した．座長をしていただいたオーストラリア人の男性医師からは，自分の周囲では女性医師が子供を連れて学会に参加したり，男性医師が育児で休暇をとったりするとのコメントも出され，文化の違いを実感した．昨今，国内で医師不足が叫ばれる中で，結婚，妊娠，出産を機に職場を離れた女性医師の復職が話題となることが増えているが，今後はそのような視点からも研究を発展させていこうと考えている．（2000年卒　橋本直樹）

おわりに

本学会に参加して世界中の精神科医と新たな交流を持つことができ，精神医学において多様性が重要な役割を果たしていることが改めて実感された．これらの経験を大きな成果とするためにも，まずは各々が国内での臨床ならびに研究にさらに励む必要がある．その上で，国際的な共同研究等に発展させることができれば，日本の精神医学が世界に貢献するとともに，大きく評価されるはずである．JYPOも設立より5年を経て，今後は日本及び世界の精神医学に，いかに貢献できるかが問われる時期になりつつある．JYPOが国内外の精神医学に貢献できるよう，活動を継続するとともに，その内容をより充実させていきたいとの意を改めて強くした．（2001年卒　松本良平）

謝　辞

JYPOをご支援，ご指導していただいているJSPNおよび多くの先生方に心より御礼を申し上げます．特にYoung Psychiatrists Fellowship Programへの推薦に際しまして，お世話になりましたことを改めて御礼申し上げます．